

「南津海シードレス」の収穫前に使用できる 汚れの少ないかいよう病防除剤の選抜	
担 当	柑きつ振興センター 世良友香*・西岡真理・岡崎芳夫
研究課題名 研究年度	「南津海シードレス」の施設拡大に向けた栽培技術 の確立 平成29年～令和元年

背 景

カンキツかいよう病は発芽前～開花前の防除が重要であるが、4月以降に収穫する「南津海シードレス」では、この時期には白い汚れが目立つボルドー液や炭酸カルシウムを加用した銅水和剤の散布ができない。そのため、防除は収穫後に行われ、適期防除となっていない。

目 的

収穫前のカンキツに使用できる果実の汚れが目立たない薬剤を選抜するとともに、かいよう病に対する防除効果を検証する。

成 果

- 1 クプロシールド単用は他の銅水和剤に比べて果実の汚れが少ない。また、高い濡れ広がり性能を有する展着剤（商品名：ブレイクスルー、ミックスパワー）をコサイド3000+炭酸カルシウム剤に加用すると果実の汚れが軽減する（図1）。
- 2 クプロシールドを用いた防除体系（表1）は、3月～4月にICボルドー66D等を散布するイヨカンやアマナツなどの慣行防除体系と比べて防除効果に差はない（図2）。また、銅の薬害も問題とならない（データ省略）。
- 3 3月～4月にクプロシールドを単用で散布した果実は、選果場での洗浄処理により汚れがなくなる（図3）。
- 4 クプロシールドを除く多くの銅水和剤は、農薬登録上、果実の着生時期には炭酸カルシウム剤を加用せずに使用することはできない（令和5年1月現在）。また、本試験ではクプロシールドの単用散布を夏季に実施しても薬害は認められなかったが、樹勢や気象条件などにより発生する可能性があるため、夏季に使用する場合は炭酸カルシウム剤を加用することが望ましい。

* 退職

図表、グラフ等

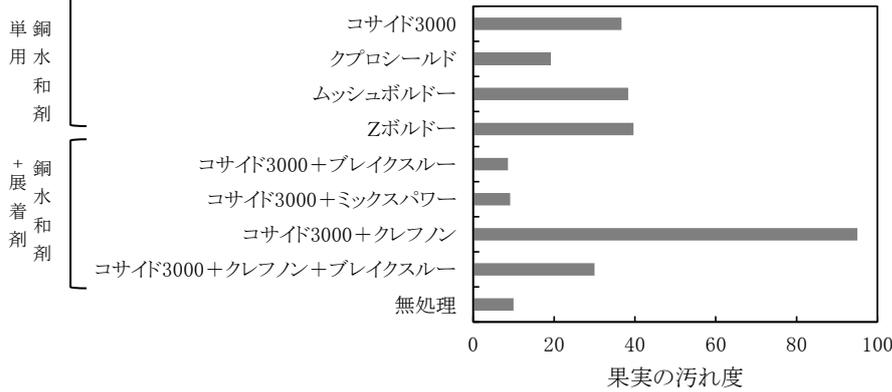


図 1 収獲直前のかいよう病薬剤散布が「南津海シードレス」果実の汚れに及ぼす影響

薬剤散布：平成 29 年 4 月 13 日、調査：4 月 25 日
 汚れ度 = { Σ (指数 × 汚れ程度別果数) × 100 } / (4 × 調査果数)
 コサイド 3000：3,000 倍、クプロシールド：2,000 倍、ムッシュボルドー：1,000 倍、Z ボルドー：1,000 倍、ブレイクスルー：10,000 倍、ミックスパワー：3,000 倍、クレフノン：200 倍

表 1 かいよう病防除体系試験の試験区概要 (2019)

試験区	果実収穫前		収穫後 (生育期)		
	3/25	4/18	5/29	6/25	7/26
クプロシールド区	クプロ		IC×80 (アピオン加用)	IC×80 (アピオン加用)	クプロ
コサイド3000 (クレフノン+ブレイクスルー加用) 区	コサイド×1,000 (クレフ+ブレイク加用)	コサイド×2,000 (クレフ+ブレイク加用)			
ICボルドー66D区 (慣行防除体系)	IC×40	IC×80 (アピオン加用)			
無処理区	—	—	—	—	—

クプロ：クプロシールド 2,000倍、コサイド×2,000：コサイド3000 2,000倍、コサイド×1000：コサイド3000 1,000倍、IC40：ICボルドー66D 40倍、IC80：ICボルドー66D 80倍、クプロ：クレフノン 200倍、アピオン：アピオンE 1,000倍、ブレイク：ブレイクスルー10,000倍

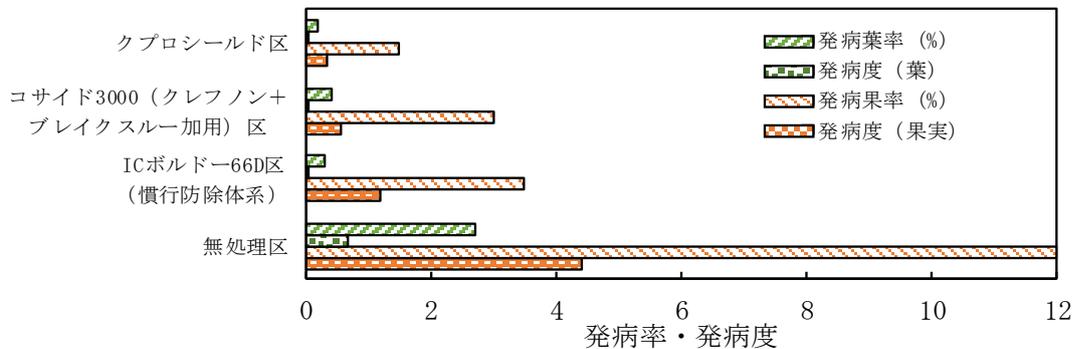


図 2 かいよう病防除体系における防除効果

春葉調査：令和元年 7 月 11 日、果実調査：令和元年 10 月 23 日

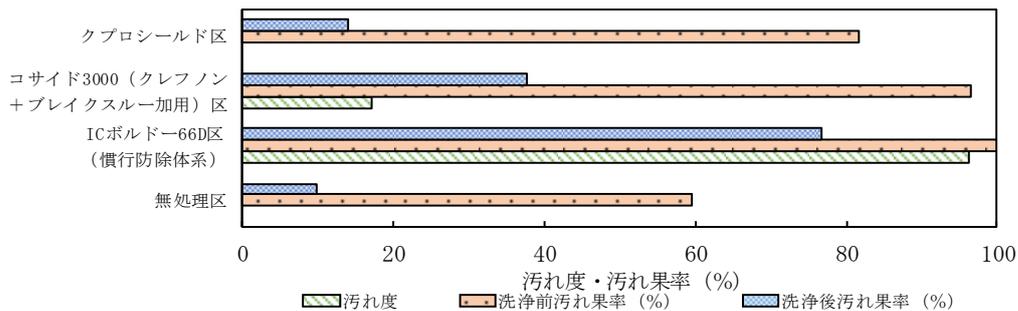


図 3 「南津海シードレス」の果実収穫前防除が果実の汚れに及ぼす影響

洗浄前調査：令和元年 4 月 24 日、洗浄後調査：4 月 25 日、久賀選果場